

2019年6月号 / No.223 / 令和元年5月20日発行



野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



輪投げでもするつもり？ オオバン君 (東よか平潟にて 撮影：ハネひとみさん)

野鳥さが223号 主な内容

- 支部設立25周年記念行事の報告.....2ページ
- 各地の観察会報告.....6ページ
- 事務局からのお知らせ.....8ページ
- 皆さんからのおたより.....8ページ
- 皆さんからの野鳥&生きもの情報.....9ページ
- 近隣地区の観察会情報.....10ページ
- 観察会会場までの案内.....11ページ
- 観察会などのお知らせ(2019年5月末～9月初め).....12ページ



支部設立25周年記念行事の報告

日本野鳥の会佐賀県支部は2019年6月19日で設立25周年をむかえます。25周年の節目を記念して4月20日、21日に記念行事を行いました。

- 【日 時】 平成31年4月20日（土）野鳥座公演&記念講演会
21日（日）記念探鳥会
- 【場 所】 ガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピア（20日）
東よか干潟（21日）
- 【参加者】 20日 講演会93名 祝賀会62名
- 【内 容】 20日：支部会員による「野鳥座」公演・・・「干潟の鳥とその暮らし」
日本野鳥の会主席研究員 安西英明氏の講演
「野鳥に気づき 命や自然について 知ろう」
21日：41名の参加者で38種の野鳥を観察しました。干潟での観察会の後は、ガイダンスルームで安西氏を囲んで「鳥談義」

(1) 佐賀県支部創立25周年記念講演 演者：安西 英明氏

（報告：蒲原留美）

<日本野鳥の会創設者 中西悟堂について>

昭和9年頃の日本では、野鳥は籠の中で愛でるか食するかの習慣しかなく、そのような中で、中西悟堂は東京近郊で執筆活動をしながら、野鳥を放し飼いにし、野山で昆虫や鳥の観察をしていた。このことは世間の注目を集めた。

また、鳥学者や民俗学者との交流も深く、徐々に「科学と歴史の融合（鳥類愛護の思想の普及と鳥類研究の推進）」の考えを基に本格的な野鳥観察を始め、この活動が「日本野鳥の会」発足につながった。当時の観察会でカラスのオスメスの区別を言うなど、周りの人々を驚かせた。

<師との出会い>

当時、小学生だった安西少年は地元の野鳥観察会に参加し、そこで川田ジュンゴ氏と出会う。川田氏はリーダーとしてとても優秀で、全国からリーダーが教えを乞いに集まるほどで、後に川田氏はリーダーの為の勉強会「川田スクール」を作った。川田氏は、男性より女性の参加者に特に力を入れて教えており、周りからはスケベじいいと言われていた。しかし、そこには女性は子を持ち、子に話して聞かせる事が多いことから、より広く野鳥観察について広めることができる、との理由があった。後に、安西氏もこのスクールの生徒となった。

<以下、安西氏著書「春の野鳥」を見に行こう を基に講演>

人類として繁栄する以前は、生物多様性のため生きることがとても難しかった。冬を乗り切る困難は逆に春を迎えた喜び＝冬を乗り越えた喜びとなる。全ての命は子孫を残す



ために生きており、それは野生動物としてのミッションであるとも言える。

野鳥の短期間での繁殖、6000種がスズメ目である。

- ・スズメ目の特徴…小さい、オスが歌う、第1指（親指）が発達している。
- ・鳥の歩きと森…多くの鳥の歩きはホッピングである。例外としてウォーキングがある。（ヒバリ、ムクドリなど）

鳥の祖先は爬虫類であることから、歩きの発達はウォーキングが先であると言えるが、何故ホッピングが多いか。恐竜時代、種子植物が進化し、森の繁栄、鳥の繁栄へと繋がった。この中で植物は近親相姦を避けるため、生産者側となり動物が消費者側となった。芽ができる（生産）→虫ができる（消費）→鳥が枝先に止まる（消費）、この時、移動手段としてホッピングをするようになる。

・森は深く、開けていないことから、鳥は連絡手段として歌う必要がでてきた。日本であまり鳴かないツグミもロシアの森林では鳴く。

（繁殖）

- ・鴨の繁殖…オスはメスより大きく、メスの生存率が低いことから、冬の間繁殖しメスの生存率を上げ、渡りに備えているのではないかとされる。
- ・干潟と鳥…カンムリカイツブリ、コサギ。オオジュリンなど、旅鳥が北上しトウネン、アオアシシギなどが飛来し、餌を啄むことで、干潟の海水に酸素を供給。浄化機能を生命が助けている。

この中で、鳥たちは一夫一妻となり（春、夏のみ）、早春からペアが誕生するとみられている。カラス、雁、鶴は一生つがいと言われている。ムクドリは群れていても、一定の距離を取るが、互いに羽繕いをするものはつがいとみて良い。

（求愛）

- ・鳥が魚を飲むのは頭から→鱗や鱗が喉にかからないように。カワセミ、ヤマセミのオスがメスへ餌（魚の頭）を投げる。これは求愛行動で、メスがオスを選ぶと言われているが、実はこの行為はオスがメスを品定めしてからのもので、学習的なことと思われる。
- 他に学習的なこと…鳥の糞の仕方→糞の瞬間に脚を広げる。ハイタカやミサゴは脚を前に出す。

（声替り・交尾）

- ・雀は8月まで交尾をする。さえずりが聞こえるが、小さく優しい声である。オスメスどちらかは不明。
- ・カルガモが顔の上げ下げをしている時は水中交尾の可能性もある。また、オスは交尾の後、反時計回りをする。（安西氏観察より）

（抱卵期間）

全て産み終えてから抱卵する鳥が主であるが、猛禽類は1個目から抱卵する。これは雑食性で生存率が低いためと考えられる。

繁殖期のカラス…オスは喉を膨らます。このことから繁殖期のカラスは観察がしやすい。

（雛の世話）

- ・雛は一年たったら繁殖可能となる。これは生存率が低いためサイクルを早くしている。

・つばめのオスの寝どこは安定しておらず、巢の近くに居るが、メスの信頼度によりその距離が決まる。

また、メスの真横には一年目の雛がいることが多い。生物の原種はメスということから、メスの力が強いという事かも知れない。(安西氏観察より)

(日本野鳥の会研究部)

昭和9年までは有識者のみにより運営されていたが、昭和14年に一般会員からも研究部に参加できるようになった。このことにより様々な研究の幅が広がった。

- ・上に、上尾筒。下に下尾筒がある。
- ・クジャク…尾が長いのは、上尾筒である。
- ・ヒヨドリ…下尾筒には白い羽縁が目立つ。(日本、朝鮮。フィリピンの一部)
- ・サンコウチョウの巣作り…蜘蛛の巣に飛び込み糸を体に絡ませ、その糸にコケなどをからめ巣を作る。

(最後に)

雀のふ化から巣立ちまで、2週間であり、夏まで2回、3回と繁殖をする。サンコウチョウのふ化から巣立ち10日である。1日最低300回は餌やりをしており、4200回の餌やりとなる。皆、食べられるという原則の中に命がある。自分たちの故郷をみつめ、見直すことで、野鳥のためにできることが出てくると思う。

皆さんには、身の回りに命が点在しているということを強く意識して今後も野鳥を見続けてもらいたい。

*安西氏記念講演の内容は、情報量がとても多く、多岐にわたっており、まとめるということが難しかったので、メモを基に箇条書きにさせていただきました。読みづらい部分もあるかと思いますがご了承願います。

(2) 安西さんの野鳥談話

(文&写真：島田洋)

【はじめに】日本野鳥の会佐賀県支部は、創立25周年を迎えた。記念行事のゲストは財団本部から安西英明さん。安西さんはいろんなことを話された。たくさんお話をされたと思うが、島田の記憶に残っていることを書き並べてみた。

耳にした面白い話も追加して記した

【日時】2019年4月21日

【場所・場面】① 東与賀干潟公園紅楽庵でのお話

② 昼食会場。東与賀町の「丸善」

③ 佐賀空港周辺の散策

【島田の記憶やメモに残った話】

- ① カラスはメスが抱卵するといわれるが、オスが抱卵した例もあった。
- ② ハシブトカラスなどは、8月25日から9月5日頃にかけて鼻孔を覆う羽が抜ける。
- ③ ミヤマガラスは鼻孔をおおう羽がない。孔が丸見え。
- ④ カツオドリやウは、鼻孔は閉じている。



- ⑤ アメリカでのクモの糸の研究だが、その研究目的は防弾チョッキ作成である。
- ⑥ 500系新幹線の先頭形状はカワセミを参考にしている。
- ⑦ 初列風切り羽は進むため
- ⑧ 次列風切り羽は浮かぶため
- ⑨ 尾羽はブレーキである
- ⑩ 尾脂腺は羽つくりのため
- ⑪ 頭部には羽毛が多い
- ⑫ スズメ目は間接頭かき
- ⑬ ペンギン目も間接頭かき。ペンギンはミズナギドリ目に近いだろう
- ⑭ ハシボソガラスの羽毛の根っこは白い
- ⑮ ハシブトガラスの羽毛は根っこまで黒い
- ⑯ ハシブトガラスはホッピング
- ⑰ ハシボソガラスはウォーキング
- ⑱ カラスは左脚で物を抑える。9割ほど。カラスの脳機能には左右差がある？
- ⑲ ガンやハクチョウは北海道で交尾する。交尾時間は18~19秒
- ⑳ 彼らのつがいの相手は、定まっていない。
- ㉑ 羽つくりは興奮を抑えるため。けんかや交尾の後に
- ㉒ 鳥は辛いのはわからない。甘いのはわかる
- ㉓ ウグイス、ヒヨドリ、スズメは甘いのが好き
- ㉔ 鳥媒花は赤い色。例えば椿の花
- ㉕ 托卵。あるカッコウは36個産卵した。そうでもしないと命が繋がらない。
- ㉖ スズメの数は日本全国では1800万羽と推測される。
- ㉗ 野鳥の巣の中の汚物は、ダニなどが分解している。
- ㉘ けがをして保護されたフクロウに柔らかいエサをやっても元気にはならない。
- ㉙ 自分の髪の毛を切ってエサに混ぜこんで与えた人がいる。フクロウは元気になった。
- ㉚ つまり、傷病フクロウは、髪の毛などをペリットにして出すことで元気になった。
- ㉛ ペリットを吐き出すからフクロウは元気になれる
- ㉜ ケツアールはアボガドの種子を飲み込んであちこちに広げる
- ㉝ アメリカホシガラスはエサの隠し場所を1万か所記憶している
- ㉞ 矢羽はオオタカやハイタカの羽が使われていた。
- ㉟ オオタカという言葉は「アオタカ」がなまったものである
- ㊱ 東京湾の埋め立てには三井不動産がかかわることが多かった。
- ㊲ 現在の三井不動産は環境保護に協力的である
- ㊳ 竹はイネ科である
- ㊴ 垂直の網を張るクモはたいてい頭を下に向けている。
- ㊵ ギンメッキゴミグモだけは頭を上に向けている。
- ㊶ イヌワシの羽は矢羽には適さない。矢を作る職人から見たらイヌワシは価値がない。
- ㊷ 価値のないものはイヌ呼ばわりである。だからイヌワシ
- ㊸ ヤマセミがくちばしに何匹ものエサをくわえていたとの目撃（加藤さん）



支部25周年記念行事に来賓として出席くださった「佐賀野鳥の会」の吉原敏郎様よりお祝いのメッセージを頂きました。ありがとうございます。

【祝 日本野鳥の会佐賀県支部創立 25 周年】

事業・広報部長 吉原 敏郎

日本野鳥の会佐賀県支部が創立 25 周年を迎えました。誠におめでとうございます。去る 4 月 20 日、佐賀市のマリトピアにおいて記念行事が行われました。角紀男会長と私、吉原が招待されましたので出席いたしました。

式典の後、会員による「野鳥座」のお芝居、日本野鳥の会主席研究員の安西英明氏の記念講演、祝賀会と続けました。

式典に続いて行われました「野鳥座」の公演ですが、これは支部の会員の方々に組織され小学校などの野鳥観察の指導の折に披露されている演劇で、当日の演目は「干潟の鳥とその暮らし」でした。主役の「アオサギ」さん、わき役の「ハマシギ」さんと「ダイシャクシギ」さん、ちょい役の「ハヤブサ」さん、解説役の「担任」さんですすめられました。干潟の役割や旅鳥の生態、餌と嘴の関係、ハヤブサがシギを襲うシーンでは食物連鎖・弱肉強食の現実などが小学校低学年用の劇ということだったけれども、大人でも見ごたえのある内容と名演でした。渡り鳥の生態、有明海干潟の役割と重要性、環境保護の大切さなどを、子どもたちにわかりやすく説明するには、言葉や文字よりも劇を通して訴えかける方が数倍の効果があると思いました。

演劇の後には記念講演でした。各地での講演、多くの著書やラジオ出演などで有名な安西英明氏の講演でした。「野鳥に気づき 命や自然について 知ろう」という演題でトウネンのはく製やシギの羽などを回覧されたり、戦前の日本野鳥の会のパンフレットを見せてもらったり、鳴き声のテープなどを聞かせてもらったりで至れり尽くせりの講演でした。まず、日本野鳥の会の創立者「中西悟堂」氏にまつわるお話から始まりました。昭和の初め、捕った鳥を飼うという文化はあったが、「野外で鳥を見る、親しむ」という楽しみはなかった。1934 年（昭和 9 年）、今から 85 年前に日本野鳥の会が発足した。当時は文化人の集まりだった。北原白秋、柳田國男、金田一京助・春彦、内田清之助などが探鳥会に参加していた。昭和 14 年、研究部なるものが発足し一般の人が加わってきた、という話でした。

面白かった話を抜き書きしてみると「小鳥」は英語で「song bird」という、「small bird」ではない、とか「カモは越冬地で結婚する」とか「ツグミもロシアではさえずる」とか「オスの浮気は多くのメスと交尾して多くの子孫を残すため」「メスの浮気は出来るだけ強いオスと交尾するため」「オシドリ夫婦というけれど毎年同じカップルとは限らない」など書きだしたら限がありません。

懇親会まで参加させてもらいました。その中で感じたことを書いてみます。

組織力の高さ、会員の団結力の強さ、支部長・副支部長のリーダーシップのよさ、財政面の確保、中央との太いパイプ、支部会員同士のコミュニケーションの良さなどを強く感じました。佐賀県支部のますますのご発展を祈念いたします。



各地の観察会報告



■金立公園観察会報告（佐賀市）

【日 時】 平成 31 年 4 月 7 日

【参加者】支部会員 39 名、一般参加者 11 名（案内役：青柳良子）

【観察された野鳥】カルガモ、アオサギ、バン、コジュケイ（声）、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、アトリ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（26 種）

【案内役より】

8 年ぶりの金立公園観察会でした。野鳥はあまり期待できないかも・・・との思いもあり、参加者も多くはないだろうと 30 枚のチェックシートを用意して行ってみたら、何と！総勢 50 名にもなってしまいました。チェックシートがなかった方、ごめんなさい🙏 冬に良く観られるシロハラ、ツグミ、アオジ、クロジなどがまだ観られたことや、ウグイスの「ホーホケキョ」、コジュケイの「チョットコイ」など春を感じさせてくれる声、ツバメの姿など、まさに冬～春への「変わり目」を実感した観察会でした。

観察会の最後を飾ってくれたのはイカルでした。高い木のとっぺんで太陽に照らされ存分にその姿を見せてくれたのです。スコープを覗いた小学生の女の子は「かわいい！」と歓声をあげていました。桜の花もあちこちで満開！足元の野草たちも可愛い花をたくさん咲かせていました。

「野鳥の名前のついた野草」を見つけてみませんか？と呼びかけてみました。よく見かけたのは「カラスノエンドウ」「スズメノエンドウ」「カスマグサ」でした。この 3 種類の見分け方 覚えてくれたかな？

暖かな日差しに恵まれ、とても気持ちの良い日でした。前に、この金立公園でアオゲラが木をつついていたのを見たり、エナガの巣も見たことがあります。

観察会の時だけでなく足を運んでみると、思わぬ発見があるかも知れませんよ！

■東よか干潟（大授搦）観察会報告（佐賀市）

【日 時】 平成 31 年 4 月 21 日

【参加者】支部会員 32 名、一般参加者 6 名（案内役：田中丸雅雄、加藤芳隆）

【観察された野鳥】ダイサギ、アオサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ツクシガモ、マガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ミサゴ、ハイタカ、ミヤコドリ、シロチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、ヘラシギ、エリマキシギ、オオハシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ズグロカモメ、クロハラアジサシ、コアジサシ、ヒバリ、ツバメ、スズメ（43 種）

【案内役より】

前日に佐賀県支部 25 周年記念大会があり、日本野鳥の会主席研究員の安西英明氏も参加しての観察会となりました。 快晴の夏日となり、日射しも強い。安西氏の野鳥に関する様々な話を聞きながら観察する。 オオソリハシシギ、メダイチドリの赤くなった夏羽の個体が目立つ。 潮が満ち、鳥が近づき、ヘラシギの情報が入る。 間近にヘラシギを見られ、皆さん3年ぶりの対面に感激の様子です。 観察会終了後、干潟よか公園の「紅楽庵」で野鳥講座が行われて、多くの熱心な質問に時間を超過しての講座となりました。



事務局からのお知らせ

◆ 支部総会開催のお知らせ

2019 年度支部総会を下記日程で開催します。 今年度の活動方針を決める大切な場です。 これからも佐賀県支部を盛り上げていくためにも、ぜひ、多くの皆さんの参加をお願いします。 支部発足から 25 年、「平成」が終わり、「令和」の時代を迎えた支部の今後について、大いに語り合しましょう。

【日時】 5 月 26 日（日） 10:00～12:00

【場所】 「本庄公民館」 佐賀市本庄町大字本庄 279-8



※参加される方は事前送付の「支部総会議案書」をご持参下さい。

県外探鳥ツアーのご案内

梅雨と暑さを吹っ飛ばせ！

広島県・臥龍山 探鳥会ツアー

【日 時】 6 月 15 日（土）～16 日（日）

【探 鳥 地】 臥龍山（広島県山県郡北広島町東八幡原）

【見どころ】 西中国山地国定公園内の臥龍山へ「クロツグミ」「マミジロ」「アカショウビン」などの夏鳥を観に行きます。

【移動方法】 車、乗り合わせ

【担 当】 宮原明幸さん

【申し込み先】 佐賀県支部ホームページの「お問い合わせ」よりメール、又は佐賀県支部携帯電話（080-1786-8452）へ連絡をして下さい。





皆さんからのおたより

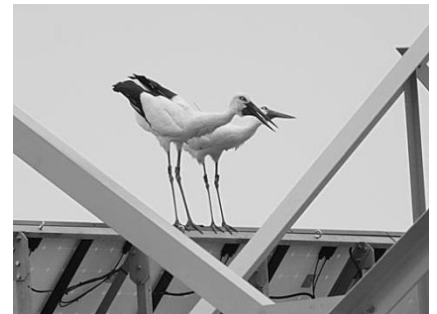


●「この時期の鳥たち 2019 その3」・・・山澤 健一さん（茨城県神栖市）

普通なら今の時期は夏鳥の渡りの時期に当たり、神栖市の対岸の銚子市の君ヶ浜をメインにオオルリ、サンショウクイ、コムクドリ、コマドリ、ノビタキを観察しましたが、今回は「2019 その2」の終わりにあったコウノトリについて書いてみたいと思います。

3月中旬から下旬にかけ4羽（野田市生まれのみ翔・ヤマト・きずなと鳴門市生まれの♀歌）でしたが、3/27にそのうちの1羽（きずな）が山梨県北杜市に移動しました。以後長野県、新潟県、宮城県に移動。コウノトリの結婚事情が分からないので、てっきり翔と歌がペアを組むと思っていたら、4月初めに野田市生まれの♀未来がやって来て、翔とペアリングしました。（コウノトリの適齢期は4歳前後らしい。翔と未来は平成27年生まれの4歳、歌は1歳）その後交尾までいきましたが、交尾した場所が高圧送電線の鉄塔で、そこに設置してあったソーラーパネルの上だったため、足場が不安定で交尾が成功したのか不明です。ここまできたら次は巣作りですが、作りかけた場所が高圧送電線の鉄塔（交尾した所とは別）であり、南側から見るとそのフロアは平らで真ん中付近に位置していて見た目は良かったんですが、下から見るとそのフロアは鉄塔を支える骨組みがあるだけで底が無いのです。これでは巣は出来ません。また巣作りの場所が高圧送電線鉄塔と言うこともあり、コウノトリ自身へのリスクや送電などに支障がある場合には、電力会社に巣の撤去を神栖市から依頼することがある。これに則り4/25に巣は撤去された。これと前後するが4/21には宮城県に移動していたきずなが当地に移動した。これで野田市放鳥の4羽と鳴門市生まれの1羽の合計5羽が滞在している。

現在、鉄塔付近は田植え中であり、田植えが終わって一段落したら、その後5羽がどうなったかは次回、報告します。画像は2枚とも交尾の前に行っていた動作です。



皆さんからの野鳥&生きもの情報

■八木 ひとみさん（佐賀市）

3月21日 【福富調整池】 オグロシギ

4月6日 【東よか干潟】 オオソリハシシギ、クロツラヘラサギ、セイタカシギ
【佐賀空港】 マガン

4月20日 【東よか干潟】 チュシャクシギ、ウズラシギ、オグロシギ、オオバン

4月28日 【福岡市】 ヨタカ



近隣地区の観察会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■日本野鳥の会 福岡支部 (参加費：会員 100 円 一般 300 円 中学生以下無料)

日時：6月2日(日)、7月7日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・今津、雨天中止 / 集合：9:00 玄洋高校北西の端道路

日時：6月4日(火)、7月2日(火) 10:00~12:00 (定例探鳥会) **集合時間にご注意を！**

場所：春日市・春日公園、雨天中止 / 集合：10:00 第5駐車場近くの音楽堂ステージ側

日時：6月8日(土)、7月13日(土) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・大濠公園、雨天中止 / 集合：9:00 公園ボート乗り場前

日時：6月9日(日)、7月14日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・和白海岸、雨天中止 / 集合：9:00 JR 和白駅前の和白公園

日時：6月16日(日)、7月21日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：筑紫野市・天拝山、雨天中止 / 集合：天拝山歴史自然公園水上ステージ

日時：6月23日(日)、7月28日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福津市・久末ダム、雨天中止 / 集合：久末ダムの多目的広場横の駐車場

■日本野鳥の会 筑後支部 (参加費：会員&高校生 100 円 一般 200 円 中学生以下無料)

日時：6月2日(日) 10:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：小郡市・花立山 / 集合：10:00 小郡市干潟の城山公園駐車場

日時：6月9日(日)、7月14日 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：高良山(久留米市) / 集合：9:00 久留米市御井町・高良下宮社

日時：6月23日(日) 9:00~ (定例探鳥会)

場所：大牟田市・黒崎公園 / 集合：9:00 黒崎公園・第1公園グラウンド

日時：7月7日(日) 10:00~ (定例探鳥会)

場所：朝倉市・甘木公園 / 集合：10:00 甘木公園噴水駐車場前

日時：7月28日(日) 9:00~ (定例探鳥会)

場所：みやま市・濃施山公園 / 集合：9:00 濃施山公園内すいせん橋

mini photo gallery

(撮影：八木ひとみさん)



ウズラシギ



ヨタカ



タシギ

~編集部からのお知らせ~

★詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。

★より良い支部報にするために皆様の感想、ご意見をお寄せください。

【編集係：馬場順一】〒841-0053 鳥栖市布津原町 61 A12-11

携帯：090-5084-2649 Eメール：f_baba841@ybb.ne.jp





観察会会場までの案内

交通手段が無い場合は、担当者までご連絡！

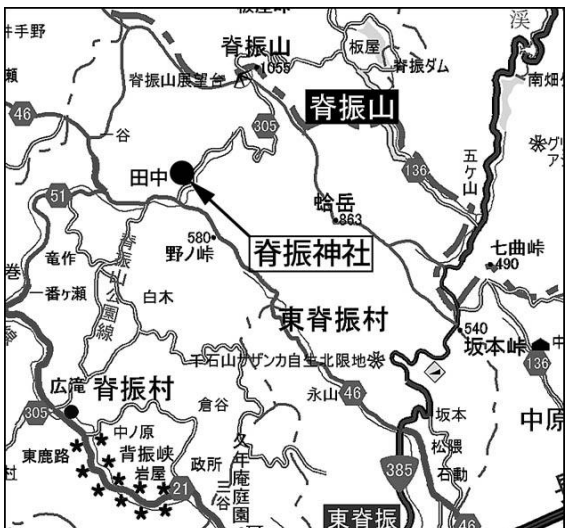
①5月26日 支部総会



②6月2日 佐賀市・森林公園



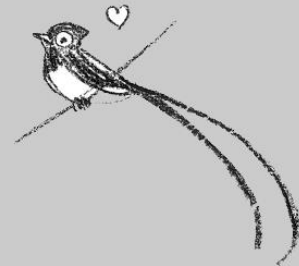
③6月9日 神埼市・脊振山



⑤7月14日 佐賀市・室内勉強会



⑥8月25日 ⑦9月8日 佐賀市・ツバメのねぐら





観察会などのご案内 (2019年5月末～9月初め)

①5月26日(日) 支部総会

[時間、場所] 10:00～12:00
佐賀市本庄町の「本庄公民館」
※詳しくは8ページの案内をご覧ください。

③6月9日(日) 脊振山観察会(神崎市)

[時間&場所] 8:00
神崎市脊振町腹巻の脊振神社下宮駐車場
[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085
[見どころ] 「オオルリ」や「キビタキ」「カッコウ」等の夏鳥の歌声を楽しめます。初夏に咲く野草にも期待。

⑤7月14日(日)室内学習会

[時間&場所] 10:00 佐賀市金立町の東名(ひがしみょう)遺跡「縄文館」
[担当] 島田 洋さん(佐賀市) 090-2393-1286
涼しい部屋での学習会です。テーマ「シギ・チドリ」の生態についての知識を深めよう
疑問に思っていること何でも話題にしましょう。

②6月2日(日)

初心者のためのバードウォッチング in 森林公園(佐賀市)

[時間&場所] 09:00
佐賀市久保田町 県立森林公園・北側駐車場
[担当] 島田 洋さん(佐賀市) 090-2393-1286
[見どころ] 公園で繁殖(子育て中)する小鳥たちを観察します。経験豊富な野鳥の会リーダーが、野鳥の見つけ方や生態を丁寧に説明します。

④6月15日(土)～16日(日) 広島県・臥龍山観察会

※詳しくは8ページの案内をご覧ください。

⑥8月25日(日) ⑦9月8日(日) ツバメのねぐら観察会(佐賀市)

[時間&場所] 18:00 大詫間公民館
[担当] 永島 博さん(佐賀市) 090-1360-8940
[見どころ] 春から夏にかけて巣立ったツバメの若鳥たちが集団で休む川辺のアシ原を観察します。

※観察会のお問い合わせは、佐賀県支部 web サイト(ホームページ)の「お問い合わせ」よりメール、又は佐賀県支部携帯電話(080-1786-8452)へ連絡をして下さい。

共通事項

- ① 資料代、保険代として100円頂戴しています。
- ② 雨天中止。(前夜 18:55 のNHK 天気予報で降水確率50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ～日本野鳥の会佐賀県支部 会報～
公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
電話 03-5436-2620(代) FAX 03-5436-2636

日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸 (☎ 090-2507-7085)
事務局：中村さやか 〒849-1315 鹿島市三河内 2974-1
支部 web サイト <https://www.yacho-saga.org/>